

平成25年度 学校自己評価システムシート (県立 川越工業高等学校 定時制の課程)

目指す学校像	校訓「誠実・勤勉・創意」を基本とする教育活動を通して、社会の変化に主体的に対応する能力の育成に向け、その基礎・基本を養う。
--------	---

重点目標	1 生徒個々の能力を把握し、基礎学力の向上をはかる。(最重点目標) 2 地域社会に根ざした学校づくりを推進する。 3 生徒一人一人を大切に、親身あふれる指導を推進する。
------	--

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	5名
	生徒	6名
	事務局(教職員)	13名

※重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学校自己評価					年度評価(2月3日現在)		
年度目標					年度評価(2月3日現在)		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	○多様な生徒が入学しており、学習能力の差が開きが見られる。その差を埋めるべく、1・2年次生を中心に、基礎学力の向上、指導方法の改善・学習環境の整備が必要である。	○生徒の実態把握と全教員での状況共有化、指導方法の工夫 ○基礎学力の定着	①生徒に対する授業理解度・状況のアンケート実施と、指導方法改善への活用 ②学習支援員・多文化共生推進員の活用 ③『総合的な学習の時間』等を利用した基礎学力トレーニングの実施 ④教科間を越えた、授業に対する協力・関係展開の実施	①学習に対する意欲、理解度の向上がみられたか。 ②学習支援員・多文化共生推進員と協力し、授業の理解度が改善されたか。 ③計算力・文章理解度等、基礎学力向上が図られたか。 ④教員間で協力し、相乗効果のある授業が実施できたか。	①生徒アンケートを実施し(88%の回収率)86%の生徒が現在の学校生活に満足していた。 ②2名の学習支援員を活用できた。 ③総合的な学習の時間等を活用し、漢字検定(受検者数昨年44名→今年112名)・計算技術検定等に挑戦した。 ④教員間で授業を参観し、授業改善に役立てた。	A	○生徒アンケートの内容について、少し改善する必要がある。 ○学習支援員の活用方法について、工夫する必要がある。 ○漢字検定等の資格取得啓発により、学習意欲の向上が図られた。来年度も継続的に実施し、それが文章読解力向上や他教科の基礎学力向上へつながることを期待する。
2	○学校評価懇話会など校外の方々との意見交換の場を充実させ、広報活動の改善も図りながら、PTA総会、体育祭以外の学校行事にも保護者が参加できるように、工夫していく必要がある。	○開かれた学校づくり ○情報発信の時期・方法等の工夫	①学校評価懇話会での活発な意見交換、助言の活用 ②より充実したホームページの作成、定期的更新 ③各種行事への保護者・地域の方々の参加	①学校評価懇話会での忌憚のない意見交換をおし、本校の状況や取り組みをアピールすることができたか。 ②ホームページを改善し、周囲へのアピールに活用することができたか。 ③行事への保護者参加、地域広報等をおして公開講座への参加者が多くいたか。	①デートDV防止講座を新聞やテレビで報道できた。 ①埼玉大学講師、特定社会保険労務士等、外部講師を積極的に活用した。 ②ホームページの更新や定時制便りの発行を行った。 ③土曜日の体育祭や電気科課題研究発表会の公開等を通じて保護者の学校行事への参加を促した。	B	○保護者への学校行事案内を書面で連絡する際、ホームページの閲覧・利用も記載する必要がある。今後も継続して保護者の学校教育への興味関心を高める努力を要する。 ○外部の専門機関や企業等との連携をさらに強化し、本校の取組をアピールする必要がある。
3	○多様な生徒個々に応じた指導方法の工夫に努め、社会に出る準備として、規律ある学校生活への意欲・参加を喚起することが必要である。	○基本的な生活習慣の確立 ○生徒の自己実現に向けた指導	①昨年に引き続き、登・下校時の生徒への声掛け運動の実施 ②三者面談・情報交換の実施 ③充実した学校生活を送れるよう、生徒と日常的な相談・環境作りの実施 ④学校・学年をおし、充実した進路指導の実施	①継続的に声掛け運動を実施できたか。 ②三者面談等をおして情報交換をしながら保護者と協力して生徒の指導を実施できたか。 ③前年度に比べて出席率が向上したか。 ④多様な生徒個々に応じた、充実した進路指導を実施できたか。	①継続的な一声運動や保護者との連携強化等により、問題行動の減少や出席率の向上(90.2%)につながった。 ④繰り返し行った面接や履歴書指導進路ガイダンス・企業説明会参加・講演会・短期見習い雇用・進路研修会等に積極的に取り組み、進路先決定率は、現在78.3%で、大幅に向上した。	A	○落ち着いた学習環境が更に良くなるよう、今後も継続して粘り強く指導を行う必要がある。保護者の協力が得られるよう連携強化をさらに図る ○卒業を迎える生徒数が毎年増加している中で、進路先の決定がスムーズに進むよう、これまでの進路指導方法に改善を加えながら、成果の向上に努める。

学校関係者評価	
実施日	平成26年2月17日
学校関係者からの意見・要望・評価等	
○生徒にアンケートを実施していることは、素晴らしいので、今後も継続してほしい。 ○授業中、グループ協議等を活用し、さらに生徒が魅力を感じる授業を今後工夫する必要がある。 ○学習支援員をさらに有効活用する方策を考える必要がある。 ○資格取得を積極的に支援し、授業に興味関心を持たせている。	
○保護者に学校に来てもらうための方策や学校をさらにアピールする方法を今後も継続して考えてほしい。 ○落ち着いた学習環境をさらに整備するために、今後も継続して生徒指導に取り組んでほしい。出席率が向上したことは素晴らしいことであるが、今後さらに向上させるための方策を是非とも考えてほしい。 ○来年度卒業を迎える生徒数が大変多くなるので、さらに早め早めの丁寧な進路指導に取り組んでほしい。	

